



Report

亦宛然掌中劇団が20年ぶりに登場! 公演&ワークショップで参加者を魅了

7月31日、台湾布袋戲 亦宛然掌中劇団の上演とワークショップをひまわりホールで開催しました。亦宛然掌中劇団は、清朝後期(約200年くらい前)に中国大陸から伝わった掌で操る伝統的な人形劇スタイルを継承する台湾「布袋戲(掌中戲)」の正統派劇団で、90年以上の歴史を持ちます。今回は、名古屋～飯田～東京という上演とワークショップ、展示というツアーで来日しました。名古屋での上演は20年ぶりとなります。

武に秀でた書生が助け出し、それが縁でめでたく結婚するという海外向けのセリフのない親しみやすいものです。簡単な人形と役柄、ストーリーの説明のあと、上演。小気味よい人形の動きと細やかな心情表現、傘や皿回しなどの伝統的な布袋戲の技術が、生演奏に乗って繰り広げられました。

上演後のワークショップでは、まずは舞台上で演奏していた生演奏の楽団に前に出てきてもらって、実際に楽器を鳴らしての説明がありました。見慣れない楽器や音の大きな楽器に、興味津々でした。そのあと、李奕賢氏による人形操作の実習。観客全員(2回に分けて行った)が練習用の人形を持って動かす体験をしました。歩かせるところから、人形を空中に投げつけて再びキャッチする技、首を中心に人形をぐるぐる回すなど、上演で観た動きの丁寧な説明と実演があり、みなさん夢中になっていました。そのあとの質疑応答では「台湾でどうやったら布袋戲を観ることができるか」などの質問もあり、いま人気の身近な外国、台湾の人形劇への関心が高まったと感じた夜でした。

愛知人形劇センター理事長 たかはしいちげん



Report

理論と経験に裏打ちされたネヴィル・ランターの 充実のWSと最後の操演で、想いを新たに……

「人形劇、とは何か」という永遠の問い。それを解くことがどんなに楽しいかを思い知ったワークショップでした。

オランダ在住の人形劇家ネヴィル・ランター氏のラストステージ「ユビュ王」日本ツアーに合わせ、2024年8月11日から2日間、ひまわりホールでネヴィル氏のワークショップが開催されました(全国専門人形劇団協議会主催)。参加者は経歴も様々なプロ人形劇団メンバーのほか、人形劇ファン、人形劇研究者、俳優、演出家など約20名。私自身、ネヴィル氏のワークショップに参加するのは2度目です。前回のワークショップでは、理論的に言語化された人形操演のメソッドに目から鱗で、それまでなんとなく感じていた人形操演のルールが明確になり、頭のもやもやがすっきりしたのでした。今回のワークショップでも様々な人形操演の理論が語られ、テクニックに特化した操演実技、またグループワークがいくつか行われ、ネヴィル氏、参加者ともに真剣なまなざしと笑いの絶えない2日間でした。

さて、「人形劇、とは何か」。参加者から「それは本当に人形でしかできないことでしょうか?」という質問が。人形劇関係者からはなかなか出にくい質問です。ネヴィル氏は元々人形を遣わない俳優出身。この人形操演メソッドは俳優を対象としたワークショップでも行うそうです。すると、たとえ人形を遣わない俳優でも演技の質が明らかになる、とネヴィル氏は言います。そして、俳優が演じる魅力、人形が演じる魅力はそれぞれあり、その歩み寄りにより良い俳優となる、と語りました。

動く、止まる、口を開ける、目線を動かす、といった動作は俳優が演じることができません。人形で演じることと大きく異なるのは、人形は動きが制限されている点です。だからこそ、無駄な動きを排除し、必要最小限の動きを選択して物語を観客に伝える必要があります。ネヴィル氏はそれを「振付」と言います。また、動作→静止→動作の繰り返しは、登場人物の置かれた状況や心理に適切な「リズム」があり、特に静止している時に観客は舞台からのメッセージを受け取り想像を膨らませる、と

言います。「振付」「リズム」、そして「静」の重要性。人形劇は音楽であり、ダンスでもある。ポップスのような一定のリズムのものではなく動と静、強と弱がダイナミックに織りなすクラシック音楽のようであり、バレエのようであり、空白があるからこそ想像が膨らむのは小説のようです。人形劇に理論的な技術が必要なのもまた、それらと共通するところなのだと思います。

ワークショップの総仕上げはネヴィル氏演じる「ユビュ王」の鑑賞です。観客になってしまえば理論的なメソッドなど考えながら観る余裕のないほど彼のillusionに惹きこまれます。理論と、経験あってこそ、です。この日本ツアーがネヴィル氏の俳優としての最後の舞台。引退は本当に惜しまれますが、私もまた人形劇俳優として生きていこう、と気持ちを新たにしたのでした。

愛知人形劇センター理事 ゆみだて さとこ

ひまわりホール35周年の節目に 子どもアートフェスティバル2024

「子どもが主役!」をモットーに、子どもたちが参加し、創り、体験できる「子どもアートフェスティバル」。ひまわりホールと損保ジャパン名古屋ビル会議室を使い、2日間でプロ・アマ舞台芸術創造団体30団体以上が一斉上演します。今年には人形劇場ひまわりホール創立35周年を記念して、全国からプロ人形劇団を招へいします。また、あかちゃんファミリー応援企画としてベイベーシアターと幼児向け作品を同じ時間帯に上演して、あかちゃんもお兄ちゃんお姉ちゃんも楽しめるような空間作りを試みます。アートと触れ合う2日間、皆さまのご来場をお待ちしています!!

プログラムなど詳しくは特設サイト
https://aichi-puppet.net/children_artfes/ をご覧ください。



©スタジオジャビぽ / NHKエンタープライズ

「ひまわりホール」35周年を祝って「子どもアートフェスティバル」を開催します



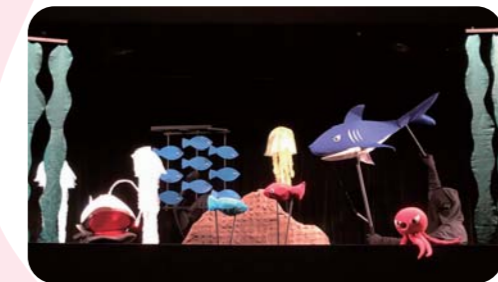
かすかず(人形劇団どむならん)



パネット・なごや



人形劇団とんかち



人形劇団ひつまぶし



マギカマジカ



手風琴



夢源座



人形劇団ブーク



人形劇団むすび座



人形劇団ココン

ひまわりホール35周年
子どもアートフェスティバル2024
10月13日(日)・14日(月・祝) 10:00スタート
損保ジャパン名古屋ビル

★入場料

1DAYパスポート1,000円
2DAYパスポート1,500円
※3歳以上有料
※1DAYパスポートで、いずれか1日のプログラムに自由に参加可能

★チケット予約・購入

愛知人形劇センター予約フォーム
https://aichi-puppet.net/ask_reserve/ticket_reservation/artfes2024/
ローチケ(Lコード=43441)
<https://l-tike.com/order/?gLcode=43441>



予約サイト /

予約サイト /